

技の創造

△17△



2016年(平成28年) 6月3日 金曜日

きょうは何の日

測量の日

埼玉新聞社 〒331-8686 萩生市北区吉野町2-282-3
本社代表 048-795-9930

「技術と技能の橋渡し」大特集

方を修得したかがわかるのがわ
西方がなれば成立しな
にめかねば、となく技能
は技術よりも蔑視される傾
向があります。これは技術
の理解不足とエリート意
識からくるものと考えられ
ますが、それ以前に両者を理
解する橋渡しとなる人材が
不足していることに起因す
ます。そのため人材を育成
するための手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これを機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。



工学専攻(博士後期課程)修了。東京農工大学大学院工学府機械システム工学科卒業。螺子製作所、MOT(技術経営修士)。安藤螺子製作所、雇用・能力開発機構(現独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)などを経て、15年4月から現職。専門は機械加工学、技術経営

武雄 靖 製造学科准教授

技術と技能の橋渡し

注視行動分析と並んで、人の目
の動きを計測できる「アイカ
メタ」。この特殊な機器を用
いて、人がどうして機械加工
を行うのかと、それが何を用
いて、何を目的に使うのかと、
このように見ていくのかと、
この特徴を明らかにするた
めの「いわゆる技術と技能の橋
渡し」をキーワードに、
技術と技能の関係性や、社会
全体における技能者の有効活
用を図った仕組みづくりに
関する研究を行なっています。
また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。

■「アイカメタ」で分析
注視行動分析と並んで、人の目
の動きを計測できる「アイカ
メタ」。この特殊な機器を用
いて、人がどうして機械加工
を行うのかと、それが何を用
いて、何を目的に使うのかと、
このように見ていくのかと、
この特徴を明らかにするた
めの「いわゆる技術と技能の橋
渡し」をキーワードに、
技術と技能の関係性や、社会
全体における技能者の有効活
用を図った仕組みづくりに
関する研究を行なっています。
また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。

■「アイカメタ」で分析
注視行動分析と並んで、人の目
の動きを計測できる「アイカ
メタ」。この特殊な機器を用
いて、人がどうして機械加工
を行うのかと、それが何を用
いて、何を目的に使うのかと、
このように見ていくのかと、
この特徴を明らかにするた
めの「いわゆる技術と技能の橋
渡し」をキーワードに、
技術と技能の関係性や、社会
全体における技能者の有効活
用を図った仕組みづくりに
関する研究を行なっています。
また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。

■「アイカメタ」で分析
注視行動分析と並んで、人の目
の動きを計測できる「アイカ
メタ」。この特殊な機器を用
いて、人がどうして機械加工
を行うのかと、それが何を用
いて、何を目的に使うのかと、
このように見ていくのかと、
この特徴を明らかにするた
めの「いわゆる技術と技能の橋
渡し」をキーワードに、
技術と技能の関係性や、社会
全体における技能者の有効活
用を図った仕組みづくりに
関する研究を行なっています。
また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。

■「アイカメタ」で分析
注視行動分析と並んで、人の目
の動きを計測できる「アイカ
メタ」。この特殊な機器を用
いて、人がどうして機械加工
を行うのかと、それが何を用
いて、何を目的に使うのかと、
このように見ていくのかと、
この特徴を明らかにするた
めの「いわゆる技術と技能の橋
渡し」をキーワードに、
技術と技能の関係性や、社会
全体における技能者の有効活
用を図った仕組みづくりに
関する研究を行なっています。
また、地域の産業界との連携
によるつながりを発展させ
る手法です。これが機械加
工の注視行動が一般化され
ば、多くの選手が比較的柔軟
に評価法の確立へと繋がります。
しかし、生鋼材の仕上げ加工に使
つかない実験的知識の面
からも、併せて統合しま
す。

埼玉新聞

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-795-0161 FAX 048-653-0100
keizai@saitama-np.co.jp